

文学部表現文化学科・文学部人文学科・表現学部表現文化学科

【自学・自習】課題

日本語日本文学コース

※人文学科日本語日本文学コース(1・2年生)と表現文化学科日本語日本文学コース(3・4年生)の皆さんへ

日本語日本文学コースの課題は、「全学年共通課題」と「学年別課題」の二つからなります。両課題の趣旨を十分理解した上で、作成して下さい。

《全学年共通課題》

今、童謡詩人金子みすゞの作品がテレビで紹介されています。みすゞには次のような作品もあります。

積った雪

上の雪

さむかるな。

つめたい月がさしていて。

下の雪

重かるな。

何百人ものせていて。

中の雪

さみしかるな。

空も地面も見えないで。

この世に存在するものに対するみすゞのやさしさや思いやりが表現された作品となっています。

さて、3月11日、東北・関東地方の人々は今までにない大震災を経験しました。被災地域復興には多くの時間がかかります。この未曾有の災害に対し、大正大学では被災地域の復興支援活動に着手しました。そこで、皆さん、大正大学で学ぶ一人の学生として被災地の復興支援活動について考えてみる必要があるのではないのでしょうか。目に見える支援、あるいは見えない支援と支援の形はさまざまでしょう。いま自分がおかれた立場で無理をせずどのようなことができるかを考えてみましょう。その際、金子みすゞのようなやさしさや深い思いやりが根底になければならないことは言うまでもありません。あなたの復興支援活動に対する考えを600字程度でまとめて下さい。

まとめる際には、大正大学で学ぶ一人の学生として、「大正大学新教育ビジョン〈4つの人となる〉」を踏まえてまとめてください。「大正大学新教育ビジョン〈4つの人となる〉」

は大学のホームページ（教育ビジョン→TSR→教育ビジョン）や大学案内等に 있습니다。なお、すぐれたレポートは後日「日本語日本文学コースのブログ」で紹介いたします。

※レポートの形式

レポートはワープロで作成してください（A4横 縦書き 一行40字×40行）。また、市販の400字詰め原稿用紙（B4 縦書き）でもよい。タイトルと氏名を明記すること。

※締め切り日

- 1年生→4月28日の大学入門Ⅰの時に提出してください。
- 2～3年生→5月9日5号館3階閲覧室のボックスに提出してください。
- 4年生→4月25日の在校生ガイダンスの時に提出してください。

《学年別課題》

◆第1学年（留年生も含む）

Ⅰ、学習テーマの趣旨、求めたい学習成果と目標

日本語日本文学コースでは「読み・書き・話す・調べる・考える・まとめる」の能力向上を重視しています。そこで今回の課題はこれらの能力を養うために設定いたしました。念入りに調査をして、その成果が要点を踏まえて過不足なく丁寧にまとめられていることを目標とします。

Ⅱ、課題

高等学校の教科書に掲載されている文学作品（古典・近代問わず）から一つを選び、その内容と作者について、できるだけ詳しく調べて2000字程度にまとめてください。

Ⅲ、学習の方法（アドバイス）

- ①第1週目 作品が決定したら図書館（文学辞典・関連図書など）やインターネットなど、あらゆる方法で資料を収集して、必要な情報を入手して下さい。
- ②第2週目 それらの情報や資料を熟読してよく考え、重要なものを選択してください。次にレポートの構成を考えながら原案をまとめてください。
- ③第3週目 原案を基にレポートを完成させてください。まとめる際は自分のことばで記すために、国語辞書を活用して下さい。丸写しは「百害あって一利なし」です。参考にした文献や情報は最後にまとめて記しなさい。レポートはワープロで作成してもよい（A4横 縦書き 一行40字×40行）。また、市販の400字詰め原稿用紙（B4 縦書き）でもよい。タイトルと氏名を明記すること。

Ⅳ、レポートの評価、締め切り日、提出場所

提出されたレポートは、日本語日本文学コースの教員によって評価されます。レポートの提出は最初の基礎ゼミナールⅠの授業時になります。

テーマ指導責任者（質問先）

米山孝子 t_yoneyama@mail.tais.ac.jp

大場 朗 a_oba@mail.tais.ac.jp

指導教員直通ファックス番号

03（5394）3126

※大学に登校して指導を受けたい学生は、あらかじめテーマ指導責任者にメールあるいはFAXで相談して日時を決定して下さい。指導の教室は5号館3階の閲覧室です（大正大学巣鴨校舎案内図を参照して下さい）。

登校可能な1年生へ

4月20日（水）を登校日とします。時間は10:00～12:00と13:00～15:00です。都合のよい時間に出校して下さい。計画停電などによって交通機関の運行に不安がある場合は、無理をしないでください。当日は課題作成に関わる指導日で、質問や疑問点についてお答えします。評価や単位の対象になったりしませんのでご安心下さい。指導の教室は5号館3階の閲覧室です（大正大学巣鴨校舎案内図を参照して下さい）。

学生生活相談について

大学生活をはじめるとあたってさまざまな質問（あるいは不安・悩み）があるのではないのでしょうか。日本語日本文学コースでは、みなさんの質問に対応するために相談窓口を開設しています。個人情報厳守いたします。お気軽にご相談下さい。

【担当教員メールアドレス】

米山孝子 t_yoneyama@mail.tais.ac.jp

大場 朗 a_oba@mail.tais.ac.jp

◆第2学年（留年生も含む）

I、学習テーマの趣旨、求めたい学習成果と目標

日本語日本文学コースの2学年では、「古典文学分野・近代文学分野・日本語学分野」を広く学ぶ一方、興味ある分野の絞り込みも行います。そこで今回の課題は、こうした絞り込みや選択がスムーズに行えるよう事前準備をしていただきます。3年次の課題研究にも連動していくので重要な課題学習となります。したがって、念入りに調査をして、その成果を過不足なく丁寧にまとめてください。それを目標とします。

II、課題

あなたが履修しようとする研究分野（古典文学研究・近代文学研究・日本語学研究）のシラバス（T-Po）を読んで、その作品や作家あるいは関心あるテーマについて予習をかねて調査し、2000字程度にまとめてください。

Ⅲ、学習の方法（アドバイス）

①第1週目 作品・作家・関心あるテーマが決定したら図書館（文学辞典・関連図書など）やインターネットなど、あらゆる方法で資料を収集して、必要な情報を入手して下さい。

②第2週目 それらの情報や資料を熟読してよく考え、重要なものを選択してください。レポートの構成（序論・本論・結論・参考文献）を考えながら、原案を作成して下さい。

③第3週目 原案を基にレポートを完成させてください。まとめる際は自分のことばで記すために、国語辞書を活用して下さい。誤字・脱字・変換ミスに注意して下さい。コピー&ペーストは厳禁です。参考にした文献や情報は最後にまとめて記して下さい。

レポートはワープロで作成してもよいです（A4横 縦書き 一行40字×40行）。また、市販の400字詰め原稿用紙（B4 縦書き）でもよいです。タイトルと氏名を明記して下さい。

Ⅳ、レポートの評価、締め切り日、提出場所

提出されたレポートは、日本語日本文学コースの教員によって評価されます。レポートの提出は5月9日5号館3階閲覧室のボックスに提出のこと。

テーマ指導責任者（質問先）

清水宥聖 y_shimizu@mail.tais.ac.jp

大場 朗 a_oba@mail.tais.ac.jp

指導教員直通ファックス番号

03（5394）3126

※大学に登校して指導を受けたい学生は、あらかじめテーマ指導責任者にメールあるいはFAXで相談して日時を決定して下さい。指導の教室は5号館3階の閲覧室です。

◆第3学年（留年生も含む）

I、学習テーマの趣旨、求めたい学習成果と目標

日本語日本文学コースの3学年では、2年次で学んだ研究分野（古典文学研究・近代文学研究・日本語学研究）の学習を踏まえて、卒業論文に直結する「課題研究」の授業を履修することになります。そこで今回の課題は、「課題研究」の授業がスムーズに行えるよう事前準備をしていただきます。4年次の卒業論文のテーマ設定にも関わるので重要な課題学習となります。したがって、念入りに調査をして、その成果を過不足なく丁寧なまとめてください。それを目標とします。

II、課題

あなたが履修しようとする課題研究（米山・大場・由井・千葉・伊藤・山本）のシラバス（T-Po）を読んで、その作品や作家あるいは関心あるテーマについて予習をかねて調査し、2000字程度にまとめてください。

Ⅲ、学習の方法（アドバイス）

①第1週目 作品・作家・関心あるテーマが決定したら図書館（文学辞典・関連図書など）やインターネットなど、あらゆる方法で資料を収集して、必要な情報を入手して下さい。

②第2週目 それらの情報や資料を熟読してよく考え、重要なものを選択して下さい。レポートの構成（序論・本論・結論・参考文献）を考えながら、原案を作成して下さい。

③第3週目 原案を基にレポートを完成させてください。まとめる際は自分のことばで記すために、国語辞書を活用して下さい。誤字・脱字・変換ミスに注意して下さい。コピー&ペーストは厳禁です。参考にした文献や情報は最後にまとめて記して下さい。

レポートはワープロで作成してもよいです（A4横 縦書き 一行40字×40行）。また、市販の400字詰め原稿用紙（B4 縦書き）でもよいです。タイトルと氏名を明記して下さい。

Ⅳ、レポートの評価、締め切り日、提出場所

提出されたレポートは、日本語日本文学コースの教員によって評価されます。また、卒論ゼミの指導の資料とします。レポートの提出は5月9日5号館3階閲覧室のボックスに提出のこと。

テーマ指導責任者（質問先）

米山孝子 t_yoneyama@mail.tais.ac.jp

伊藤雅光 m_ito@mail.tais.ac.jp

指導教員直通ファックス番号

03（5394）3126

※大学に登校して指導を受けたい学生は、あらかじめテーマ指導責任者にメールあるいはFAXで相談して日時を決定して下さい。指導の教室は5号館3階の閲覧室です。

◆第4学年（留年生も含む）

I、学習テーマの趣旨、求めたい学習成果と目標

日本語日本文学コースの4学年では、2～3年次で学んだ知識（古典文学研究・近代文学研究・日本語学研究）を踏まえて、卒論ゼミで指導を受けながら卒業論文を完成させることになります。そこで今回の課題は、卒業論文のテーマ決定と文献調査がスムーズに行えるよう事前準備をしていただきます。卒業論文の着手を早期に行い、完成度の高い内容にするためにも重要な課題学習となります。したがって、念入りに調査をして、その成果を過不足なく丁寧にまとめてください。それを目標とします。

II、課題

あなたが卒業論文で取り組みたいテーマに対し、どのような関心を持っているのか、どのような資料を使って何を明らかにしたいのか、そうした事柄を含めながら、卒業論文の概説と取り組み方について2000字程度にまとめてください。

Ⅲ、学習の方法（アドバイス）

①第1週目 関心あるテーマが決定したら図書館（文学辞典・関連図書・先行論文）やインターネットなど、あらゆる方法で資料を収集して、必要な情報を入手して下さい。

②第2週目 それらの情報や資料を熟読してよく考え、課題にしたがって重要なものを選択して下さい。レポートの構成（序論・本論・結論・参考文献）を考えながら、原案を作成して下さい。

③第3週目 原案を基にレポートを完成させてください。まとめる際は自分のことばで記すために、国語辞書を活用して下さい。誤字・脱字・変換ミスに注意して下さい。コピー&ペーストは厳禁です。参考にした文献や情報は最後にまとめて記して下さい。

レポートはワープロで作成してもよいです（A4横 縦書き 一行40字×40行）。また、市販の400字詰め原稿用紙（B4 縦書き）でもよいです。タイトルと氏名を明記して下さい。

Ⅳ、レポートの評価、締め切り日、提出場所

提出されたレポートは、日本語日本文学コースの教員によって評価されます。また、卒論ゼミの指導の際の資料とします。レポートの提出は最初の「卒論ゼミ」の授業時になります（担当教員に提出）。

テーマ指導責任者（質問先）

清水宥聖 y_shimizu@mail.tais.ac.jp

伊藤雅光 m_ito@mail.tais.ac.jp

指導教員直通ファックス番号

03(5394)3126

※大学に登校して指導を受けたい学生は、あらかじめテーマ指導責任者にメールあるいはFAXで相談して日時を決定して下さい。指導の教室は5号館3階の閲覧室です。

哲学・宗教文化コース

4月の自学・自習課題

【趣旨（全学年共通）】これまでに誰も経験したことのない大震災に見舞われ、被災された方々を思うと本当に心が痛みます。それと同時に、誰もがこの未曾有の事態の中で自分には何ができるのか、どう対応したらよいのか、という問いの前に立たされています。この大震災で被災され、深い悲しみの中で懸命に復興に努めている人、精神的に強いショックを受けている人、ボランティア活動に邁進している人は、下記の課題に無理に取り組む必要はありません。あくまで十分に安全が守られ、冷静に事態を見極められる場合に限り、取り組んでいただきたい課題です。その上で、5月からの正式の授業に備えるとともに、この災害をどう乗り越えていったらよいのかという問題を念頭に置いて、この課題に取り組んでいただければ、と願っています。

新1年生（および留年生）

【課題】 次のテーマの中から、どちらかを選んで書いて下さい（両方書いてもよい）。

（1）「高校の『世界史』または『倫理』の教科書に基づいて、関心を持った哲学者、宗教者の思想をまとめ、それについて自分の考えを述べなさい。」（採り上げる人物は一人でも複数でもよい。）

[1週目]

- ・『世界史』または『倫理』の教科書の中から調べたい哲学者・宗教者を選ぶ。
- ・可能であれば、哲学者と宗教者を一人ずつ選ぶ。
- ・教科書とともに『世界史』『倫理』の資料集、あるいは関連する書籍を参考にしながら、選んだ人物の思想を調べる。

[2週目]

- ・インターネットや関連する書籍を使って、選んだ人物の思想をさらに調べてみる。

[3週目]

- ・調べた内容を自分なりにまとめる。その際、自分の考えとの異同（同じところと違うところ）と、現代社会においてその人物の思想はどのような意味をもつと考えられるか、自らの意見を書きそえる。

（2）「今回の大震災の中で思うこと」

[1週目]

- ・今回の大震災の中で経験したこと、あるいは見聞きした出来事、あるいはテレビや新聞で知ったこと等の中から、レポートにまとめてみたいことを考える。
- ・書いてみたい内容について、親や親戚、友人をはじめとした他者と意見を交換する。
- ・書いてみたい題材について、インターネットや書籍から情報を集める。

[2週目]

- ・引き続き、書いてみたい題材について、インターネットや書籍から情報を集める。
- ・集めた情報について、他者と意見交換をしながら、自分なりの考えをより明確にしていこうように努める。

[3週目]

- ・自分の考えをまとめ、レポートを作成する。
- ・その際、（1）自分がその題材に興味を抱いた理由、（2）その題材を考えるにあたり、3週間という期間で、どのように思索を深めたか（例えば、□□という本を読んだ、とか、○○と意見を交換した、とか、インターネットを利用して△△について調べてみた、等）、（3）その結果、自らの考えはどのようにまとまったか、あるいは、まとまらず、どのようなことを考えるに至ったか、ということを明記する。

〔この課題を通して達成できること〕

- ①「現代を知る」・「世界を知る」・「自分を知る」という本コースの教育指針を実践するに先立って、古今東西の思想のあらましを整理し、授業の準備をすることができる。
- ②現在起っている具体的状況の中で、自分の立ち位置と役割について考えることができる。

【提出】：4月28日（木）の「大学入門」に持参。授業終了時に提出。

【字数】：1200字以上（各テーマそれぞれについて）が望ましい。

【書式】：A4用紙横書き（40字×40行の設定）、または400字詰原稿用紙縦書きが望ましい。

【指導責任者】本コース教務主任：司馬春英

E-mail：h_shiba@mail.tais.ac.jp（hとsの間はアンダーバー）

FAX：03-3308-3044

★今回の大震災の中で、上記の課題を遂行することが困難な場合は、責任者までご相談下さい。

【直接指導を希望する皆さんへ】

4月でも毎週、火曜・水曜・木曜には、本コースの教員は全員、大学に来ています。直接、面談して指導を受けたい場合は、新1年生（留年生も含む）は火曜日に大学にお越し下さい。もちろん、来られる人だけで結構です。来た人と来られなかった人で成績に影響することは一切ありません。また、曜日の都合が付かない人は責任者までご相談下さい。すぐに対応を考えます。

【直接指導の時間と場所】

毎週火曜日・午後1時～3時、2号館3階233教授室（2号館は、正門を入れてすぐ左〔守衛室のある建物〕です。）

【生活面での相談】

自学・自習研究以外の生活面での質問・相談も受け付けます。相談日も場所も「直接指導」と同様、毎週火曜日・午後1時～3時、2号館3階233教授室です。メールでの問い合わせは、上記の指導責任者まで。

新2年生

【課題】「情報を正しく捉えるにはどうしたらよいか——今回の大震災の渦中での情報を題材にして——」

[1週目]

- ・自らの関心にもとづき、調べる題材を決める。
- ・被災地の様子や地震発生メカニズム、原発事故や放射性物質の拡散による様々な被害等、自らの関心に即した題材について、インターネットや新聞・雑誌から情報を収集する。

[2週目]

- ・引き続き、インターネットや新聞・雑誌から情報を収集する。その際、一つのメディアだけではなく、複数のメディアから情報を収集するように努める。可能であれば、図書館を利用し、より多くの媒体（色んな種類の新聞や雑誌）にアプローチする。

[3週目]

- ・様々な情報を複眼的に眺めながら、＜発信される情報は、時間の経過とともにどのように変わっていったのか＞＜情報媒体の違いによって、発信される情報はどのように異なるのか＞等、具体的な例を示しながら「情報を正しく捉えるにはどうしたらよいか」という課題について、自分なりの意見を述べる。

〔この課題を通して達成できること〕

- ① さまざまな情報を比較検討し、それを批判的に吟味する能力を高めることができる。
- ② 「正しさ」とは何か、「真理」はあるのか、といった哲学的問題を考えることができる。
- ② 検索能力を身に付けることができる。

〔提出〕：4月26日（火）の学科別ガイダンス（14：30～16：00）に持参。

〔字数〕：1600字以上が望ましい。

〔書式〕：A4用紙横書き（40字×40行の設定）、または400字詰原稿用紙縦書きが望ましい。

【指導責任者】本コース教務主任：司馬春英

E-mail：h_shiba@mail.tais.ac.jp（hとsの間はアンダーバー）

FAX：03-3308-3044

★今回の大震災の中で、上記の課題を遂行することが困難な場合は、責任者までご相談下さい。

【直接指導を希望する皆さんへ】

4月でも毎週、火曜・水曜・木曜には、本コースの教員は全員、大学に来ています。直接、面談して指導を受けたい場合は、新2年生は木曜日に大学にお越し下さい。もちろん、来られる人だけで結構です。来た人と来られなかった人で成績に影響することは一切ありません。また、曜日の都合が付かない人は責任者までご相談下さい。すぐに対応を考えます。

【直接指導の時間と場所】

毎週木曜日・午後1時～3時、2号館3階233教授室

【生活面での相談】

自学・自習研究以外の生活面での質問・相談も受け付けます。相談日も場所も「直接指導」と同様、毎週木曜日・午後1時～3時、2号館3階233教授室です。メールでの問い合わせは、上記の指導責任者まで。

カルチュラルスタディーズコース

自学・自習のための課題

*カルチュラルスタディーズコース（新1年生～新3年生）の課題

*カルチュラルスタディーズコース3年次編入生の課題

*表現文化学科（欧米文化系）卒業論文ゼミ

＝シャウマンゼミ、内田ゼミ、伊藤淑子ゼミ（新4年生）の課題



カルチュラルスタディーズコースの新1年生は【新1年生の課題】と【新1年生と新2年生共通課題】に取り組んでください。

【新1年生の課題】

原作（外国文学の場合は翻訳でもかまいません）とその映画化作品を比べ、どのように主題的な読み換えが行われているか、プロット（物語の構成、筋立て）や描写にどのような変化があるか、またそのことがどのような効果を持っているか、分析してください。

I. 課題の趣旨

これから大学での学びが始まります。自分の視点でテーマを見つけ、分析し、自分のことばで論じることがカルチュラルスタディーズコースでは重要です。その第一歩として、どの作品なら自分の力で論じられるか、ためしてみしてほしいのです。

幼い子供でも、三輪車には乗ることができます。でも自転車は練習が必要でした。一輪車はどうでしょう。一輪車に人が乗れることはわかっています。でもかなり練習したあとでなければ乗りこなすことは困難です。文化研究にも同様のことが言えるのです。どんなに魅力的でも歯が立たない素材もあります。原作や映画がむずかしいからではありません。どこに自分の分析の足場を作ったらいいか、どこから自分のオリジナルな見解を引き出したらいいか、すべての素材が親切に教えてくれるわけではありません。論考を成功させるためには、自分の力と素材の論じやすさのバランスを図ることが大切なのです。

『魔女の宅急便』や『ハウルの動く城』の原作とジブリ映画、『ピーター・パン』や『不思議の国のアリス』や『星の王子様』などの児童文学と映画・アニメ映画、日本や欧米の文学作品と映画化作品、いろいろな比較が可能です。これなら自分の発見があるはずだと思っても、いざ、論考をまとめようと思うと意外と論じにくいことが判明することもあります。自分の企てがうまくいくかどうか、試してみてください。

素材となる原作と映画化作品は、手に入れやすさ、ということで選んでください。手堅く論点をみつけることができたなら、自分の文化研究的センスのよさに自信を持ちましょう。論点を見つけにくい素材を選んでしまった、と思ったら、その扱いにくい題材を自分の論に引き込む力を、これからの大学生活で身につけましょう。うまくいっても、いま一つ不満足な結果でも、自分でテーマを探し、素材に向き合い、自分の意見の所在を明確化しようという試みは、かならず次のステップにつながります。

II. 課題の手順

①比較の対象を選ぶ。比較・分析を始めてみて、むずかしそうだと感じたら、初期の段階なら他の素材に切り替えるのも一つの手です。ある程度進んだら、覚悟を決めて取り組んでください。

②ノートテイキングをしましょう。ノートテイキングは、ここが大事だと思ったところをメモすることです。原作を読み、映画を見ているときに、「あっ」と思った箇所をメモします。本のページ数や映画の場面とともに、自分の意見も簡潔に書きとめてください。あとで整理するためには、綴じられた帳面式のノートより、メモ用紙のような切り離しのできる紙のほうがいいのですが、今回は手持ちのものを使ってください。授業が始まりましたら、「大学入門4」や「基礎ゼミ」でノートテイキングについて説

明する機会があります。

③ノートテイキングをもとに、自分の考えたこと、見つけたことを書き出してください。

④それらの発見や論考を、どのような順番で説明するのがいいか、考えてください。

⑤論じる筋道がたちましたら、論文を書きましょう。手書きでもワープロでもかまいません。上限は設けませんが、2000字くらいを基準にしてください。あらすじなどを詳細に書く必要はありません。論じるために必要な最小限の説明で大丈夫です。

⑥使用した本と映画の情報（著者、翻訳者、映画の監督者、本や映画の題名、出版社やDVDなどの発売元など）を書き記してください。

III. アドバイス

どの作品を選んだら自分の論が生まれるか、というセンスを磨くためには、経験が重要です。どんな作品を選んだらいいか見当もつかない、ということでしたら、メールで相談に応じます。y_ito@mail.tais.ac.jpまでご連絡ください。用件に「課題の相談」と入れてください。

IV. 提出するもの

ノートテイキングと論文を提出してください。熱心にノートテイキングが行われ、自分で考えようとする姿勢があるか、という点が今回の課題の評価のポイントです。この課題に取り組んでいただいた成果は、春学期のカルチュラルスタディーズコースの授業のなかで紹介したり、ディスカッションしたりします。

【新1年生と新2年生共通課題】

テーマ： 東北関東大震災と私の町

このたびの地震は1000年に一度の規模であると言われていています。学生が体験したことがない大災害であることはもとより、教員も、大学も、このような経験をしたことはありませんでした。このような事態にいたったときに、どのようなことが起こるのか、しっかりと意識的に観察し、考えることは、メディアを研究分野に含むカルチュラルスタディーズにとって非常に重要なことです。

ただし、この大震災で深刻な被害を受けたり、精神的なショックを強く受けている人は、この課題には取り組まないでください。いま、このときに考えておきたいこともたしかですが、心身ともに強いストレスを多くの人が受けています。十分に安全が守られ、冷静に振り返ったり観察したりすることができる場合にかぎって取り組んでほしいと思います。

I. 課題の趣旨

今回の震災は通常の想定をはるかにこえるものであった。震災にあった人びとは生きること懸命である。しかしながら、被災地から遠く離れた町や村では、震災に対

してどのような姿勢をとっているであろうか。町や村のレベルでも、個人のレベルでもかまわないので、観察してみよう。震災にあった人びととの「繋がり」を感じる場合もあるだろうし、そうでない場合もあるだろう。

求めたい学習の成果

「共生」とか「助け合い」とかいろいろなことが言われるが、このことについて自分で深く考えることを求めたい。

II. 課題の手順

- ①テレビや新聞やラジオなどの報道に注意する。
- ②自分が住んでいる町や村以外の町や村の取り組みや人の行動と比較し、気づいたことをメモする。
- ③それをもとに考えたことを、レポートにまとめる。

III. アドバイス

この課題について冒頭にも書きましたが、どこにいて、どのように震災に遭遇したかによって受けとめ方は異なります。この課題の模範解答はありませんし、事実にもありません。一つの出来事も、メディアの扱い方によって、あるいはそれを受け取る人の視点や価値観によって、さまざまな意味を持つことを体験してほしいというのがねらいです。何かわからないことがあれば、k_hoshikawa@mail.tais.ac.jp に連絡をください。

IV. 提出するもの

字数は 1600 字を目安としてください。1 年生は情報の整理が 7 割、自分の意見が 3 割程度、2 年生は情報の整理が 5 割、自分の意見が 5 割程度。この課題の成果はカルチュラルスタディーズコースの授業のなかにも取り入れていきます。

提出について

5 月 9 日 17 : 00 までに 5 号館 3 階の副手さんのカウンターに持参してください。学籍番号と名前が記入してあれば、とくに表紙を付ける必要はありません。

●上記の課題は、安全な日常生活が確保されていることを前提に提出を求めるものです。この時期の勉学の大切さは言うに及びませんが、それぞれの状況を各自が判断し、取り組むことに支障がある場合は連絡をください。メールやインターネットへのアクセスが困難である場合は、急いで連絡を取らなければ、と焦らないでください。機会のあるときに、ご一報ください。時間を有意義に過ごすとともに、無理をしないように十分に気をつけてください。

●自学・自習研究のテーマ以外の質問・相談も受け付けます。メールで問い合わせてくださいるか、または以下の相談日に 5 号館 3 階に来て下さい。

伊藤淑子 メールアドレス : y_ito@mail.tais.ac.jp

相談日 4 月 5 日 (火) ・ 6 日 (水) ・ 7 日 (木) 11:00~15:00

(6 日は 13 : 00 まで)



カルチュラルスタディーズコースの新2年生は【新2年生の課題】と【新1年生と新2年生共通課題】に取り組んでください。

【新2年生の課題】

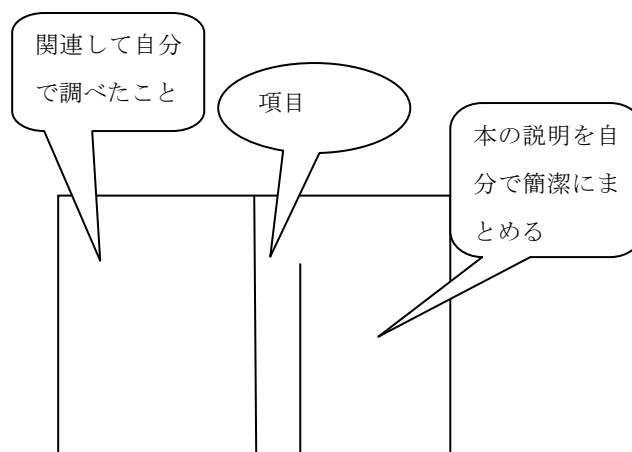
カルチュラルスタディーズについての入門書を一冊読み、これまでの知識を整理するとともに、新しい理解を深めます。読みとった内容をノートにまとめてください。さまざまな本が出版されていますが、グレアム・ターナー『カルチュラル・スタディーズ入門』（作品社）を勧めます。本が入手できない状況も考えられますので、利用できる本をさがしてみてください。適切な本が見つからない場合は y_ito@mail.tais.ac.jp まで連絡してください。また、理解できなかったところは付箋を貼るなどして目印をつけておいてください。

I. 課題の趣旨

1年間カルチュラルスタディーズコースで勉強し、「カルスタ進歩ジウム」と題した研究発表会を学生主導で企画・開催した2年生の皆さんには、ここで「カルチュラルスタディーズ」という文化研究の方法を再確認していただきたいと思います。カルチュラルスタディーズという新しい文化研究の方法にはどのような特徴があるのか、従来の伝統的な文化研究とどのように異なっているのか、ということを確認し、これからさらに発展的に勉強する足場を固めてほしいと思います。

II. 課題の手順

- ①カルチュラルスタディーズ入門の書籍を入手する。
- ②スケジュールに合わせて読み切るためのスケジュールを立てる。理解が困難なところはとばしてもいいので、一冊すべてに目を通す計画を立ててください。
- ③ノートを取りながら読み進める。



III. アドバイス

本を選ぶのも勉強の大切なステップですが、図書館が使えなかったり、本の購入が困難であったり、さまざまな状況が考えられます。その場合は y_ito@mail.tais.ac.jp にご連絡ください。一冊の本を読み切ることが自信にもなりますし、知識を体系化す

ることにもなります。理解できないところは、これからの勉強で補っていただければいいわけです。

IV. 提出するもの

本の情報（著者、題名、出版社、出版年）とノートを提出してください。知識の整理ができているか、計画的に読破することができたか、という点を評価します。

【新1年生と新2年生共通課題】

テーマ： 東北関東大震災と私の町

このたびの地震は1000年に一度の規模であると言われています。学生が体験したことがない大災害であることはもとより、教員も、大学も、このような経験をしたことはありませんでした。このような事態にいたったときに、どのようなことが起こるのか、しっかりと意識的に観察し、考えることは、メディアを研究分野に含むカルチュラルスタディーズにとって非常に重要なことです。

ただし、この大震災で深刻な被害を受けたり、精神的なショックを強く受けている人は、この課題には取り組まないでください。いま、このときに考えておきたいこともたしかですが、心身ともに強いストレスを多くの人が受けています。十分に安全が守られ、冷静に振り返ったり観察したりすることができる場合にかぎって取り組んでほしいと思います。

V. 課題の趣旨

今回の震災は通常の想定をはるかにこえるものであった。震災にあった人びとは生きること懸命である。しかしながら、被災地から遠く離れた町や村では、震災に対してどのような姿勢をとっているであろうか。町や村のレベルでも、個人のレベルでもかまわないので、観察してみよう。震災にあった人びととの「繋がり」を感じる場合もあるだろうし、そうでない場合もあるだろう。

求めたい学習の成果

「共生」とか「助け合い」とかいろいろなことが言われるが、このことについて自分で深く考えることを求めたい。

VI. 課題の手順

- ①テレビや新聞やラジオなどの報道に注意する。
- ②自分が住んでいる町や村以外の町や村の取り組みや人の行動と比較し、気づいたことをメモする。
- ③それをもとに考えたことを、レポートにまとめる。

VII. アドバイス

この課題について冒頭にも書きましたが、どこにいて、どのように震災に遭遇したかによって受けとめ方は異なります。この課題の模範解答はありませんし、事実にもありません。一つの出来事も、メディアの扱い方によって、あるいはそれを受け取る人の視点や価値観によって、さまざまな意味を持つことを体験してほしいというのがねらいです。何かわからないことがあれば、k_hoshikawa@mail.tais.ac.jp に連絡をください。

VIII. 提出するもの

字数は1600字を目安としてください。1年生は情報の整理が7割、自分の意見が3割程度、2年生は情報の整理が5割、自分の意見が5割程度。この課題の成果はカルチュラルスタディーズコースの授業のなかにも取り入れていきます。

提出について

5月9日17:00までに5号館3階の副手さんのカウンターに持参してください。学籍番号と名前が記入してあれば、とくに表紙を付ける必要はありません。

上記の課題は、安全な日常生活が確保されていることを前提に提出を求めるものです。この時期の勉学の大切さは言うに及びませんが、それぞれの状況を各自が判断し、取り組むことに支障がある場合は連絡をください。メールやインターネットへのアクセスが困難である場合は、急いで連絡を取らなければ、と焦らないでください。機会のあるときに、ご一報ください。時間を有意義に過ごすとともに、無理をしないように十分に気をつけてください。



カルチュラルスタディーズコースの新3年生は以下の【新3年生の課題】に取り組んでください。

【新3年生の課題】

3年生は2年生ゼミの所属に従って今回の課題に取り組んでください。

●シャウマンゼミ

『旅の絵本』に描写される「ボンの市場」

I. 課題の趣旨

安野光雅著『旅の絵本』の軸に当たる第見開き11に広場が描かれている。その場面をもってヨーロッパの文化における市場（広場）の意味を考察する。カルチュラルスタディーズ第2学期に学んだ記号論を復習し、記号論的分析による研究を心がけて、二年間学んだレポートの書き方を応用し、三年生としての小論文を書く。

II. 課題の手順

①インターネットで旧西ドイツの首都であったボンの市場について調べる。

- ②『旅の絵本』の見開き 11 に描かれている個々の要素を厳密に描写する。
- ③見開き 11 の統語分析。
- ④見開き 11 の範列分析。
- ⑤安野光正が描く市場の機能をまとめて、小論文を書く。

III. アドバイス

図書館を利用できなければ、インターネットを活用する。記号論の理解を深めるため『初心者のための記号論』(<http://www.wind.sannet.ne.jp/masa-t/>)をよむ。とくに第 16 章「記号論的分析の演習」は小論文の書き方のヒントとなる。

「ボン」、「広場」、「パブリック・スペース (public space)」についても調べる。定期的に教員にメール (w_schaumann@mail.tais.ac.jp) をし、指導を受けること。

IV. 提出するもの

レポート (2000 字程度。一段落は原則として 5, 6 行。段落ごとキーワードを述べ、タイトルを付ける。)

提出について

5 月 9 日 17 : 00 までに 5 号館 3 階の副手さんのカウンターに持参してください。学籍番号と名前が記入してあれば、とくに表紙を付ける必要はありません。

上記の課題は、安全な日常生活が確保されていることを前提に提出を求めるものです。この時期の勉学の大切さは言うに及びませんが、それぞれの状況を各自が判断し、取り組むことに支障がある場合は連絡をください。メールやインターネットへのアクセスが困難である場合は、急いで連絡を取らなければ、と焦らないでください。機会のあるときに、ご一報ください。時間を有意義に過ごすとともに、無理をしないように十分に気をつけてください。

- 岩城ゼミ
- 伊藤ゼミ

(岩城ゼミと伊藤ゼミは共通の課題です。扱う論文は異なります。)

論文の書き方入門

I. 課題の趣旨

3 年生は論文を書く力を実質的につけていく時期になります。自分で書く力をつけるために、他の人の書いた論文を読みます。オリジナリティは真空から生まれるわけではありません。音楽とは何か、ということを繰り返し説明するよりも、聞いた方がよく理解できるように、論文も実際に読んでその書き方を習得していくことが効率のいいこともあるのです。

II. 課題の手順

それぞれのゼミで、3 本の論文を用意します。それぞれの論文について、以下の

ことを行ってください。(大学に来られる学生には配布、来ることのできない学生には郵送などの方法を考えます。)

- ①論文を読む。
- ②その論文が何を問おうとしているのかをまとめる。
- ③その問いにどのような答えが出されているかをまとめる。
- ④その結論に対する自分の意見を、根拠とともに述べる。
- ⑤ ②～④を 1000 字程度でレポートにまとめる。

III. アドバイス

論文のテーマは必ずしも皆さんの関心とは一致していません。扱っている素材もなじみのないものが含まれているかもしれません。それでも筆者が何を主張しようとしているのかが伝わるのが論文です。もちろんそれで興味がわかれば、扱われている題材に実際にあたってほしいのですが、原典を読んだことのない人でも、その分野を研究している人には理解できるように書かれているのが論文です。わかりやすい論文はどのようなものか、それぞれの論文を批判的に読んで体得してほしいと思います。わからないことがあれば岩城ゼミは h_iwaki@mail.tais.ac.jp に、伊藤ゼミは y_ito@mail.tais.ac.jp に連絡してください。

IV. 提出するもの

3本の論文それぞれに1000字程度のレポートを提出してください。論文の問いと答え(結論)をつかんでいるか、それに対する自分の意見をきちんと展開できているかを評価します。どうしてそのように考えるか、という根拠も重要です。根拠のない意見は感想にすぎません。

提出について

5月9日17:00までに5号館3階の副手さんのカウンターに持参してください。学籍番号と名前が記入してあれば、とくに表紙を付ける必要はありません。

上記の課題は、安全な日常生活が確保されていることを前提に提出を求めるものです。この時期の勉学の大切さは言うに及びませんが、それぞれの状況を各自が判断し、取り組むことに支障がある場合は連絡をください。メールやインターネットへのアクセスが困難である場合は、急いで連絡を取らなければ、と焦らないでください。機会のあるときに、ご一報ください。時間を有意義に過ごすとともに、無理をしないように十分に気をつけてください。



カルチュラルスタディーズコースの新3年生への編入生は以下の【編入生の課題】に取り組んでください。

【編入生の課題】

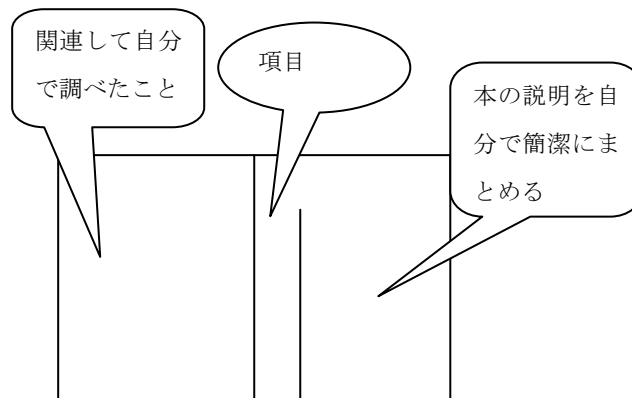
カルチュラルスタディーズについての入門書を一冊読み、カルチュラルスタディーズという新しい文化研究の方法、目的を確認します。読みとった内容をノートにまとめてください。さまざまな本が出版されていますが、グレアム・ターナー『カルチュラル・スタディーズ入門』（作品社）を勧めます。本が入手できない状況も考えられますので、利用できる本をさがしてみてください。適切な本が見つからない場合は y_ito@mail.tais.ac.jp まで連絡してください。また、理解できなかつたところは付箋を貼るなどして目印をつけておいてください。

I. 課題の趣旨

「カルチュラルスタディーズ」という文化研究の方法が、従来の文化研究とどのように異なるのかを確認しましょう。カルチュラルスタディーズにはどのような特徴があるのか、どのような学問的な目的意識があるのか、ということを確認、これからさらに発展的に勉強する足場を固めてほしいと思います。

II. 課題の手順

- ①カルチュラルスタディーズ入門の書籍を入手する。
- ②スケジュールに合わせて読み切るためのスケジュールを立てる。理解が困難なところはとばしてもいいので、一冊すべてに目を通す計画を立ててください。
- ③ノートを取りながら読み進める。



III. アドバイス

本を選ぶのも勉強の大切なステップですが、図書館が使えなかったり、本の購入が困難であったり、さまざまな状況が考えられます。その場合は y_ito@mail.tais.ac.jp にご連絡ください。一冊の本を読み切ることが自信にもなりますし、知識を体系化することにもなります。理解できないところは、これからの勉強で補っていけばいいわけです。

IV. 提出するもの

本の情報（著者、題名、出版社、出版年）とノートを提出してください。知識の整理ができているか、計画的に読破することができたか、という点を評価します。

提出について

5月9日17:00までに5号館3階の副手さんのカウンターに持参してください。学籍番号と名前が記入してあれば、とくに表紙を付ける必要はありません。

上記の課題は、安全な日常生活が確保されていることを前提に提出を求めるものです。この時期の勉学の大切さは言うに及びませんが、それぞれの状況を各自が判断し、取り組むことに支障がある場合は連絡をください。メールやインターネットへのアクセスが困難である場合は、急いで連絡を取らなければ、と焦らないでください。機会のあるときに、ご一報ください。時間を有意義に過ごすとともに、無理をしないように十分に気をつけてください。



表現文化学科新4年生で「シャウマンゼミ」「内田英一ゼミ」「伊藤淑子ゼミ」で卒業論文に取り組む学生は以下の【新4年生の課題】に取り組んでください。

【新4年生の課題】

4年生は卒業論文ゼミごとに課題が出ます。それぞれのゼミの課題に取り組んでください。個別の相談はメールなどで行ってください。

●シャウマンゼミ

映画『奇談』におけるキリスト教の描写

I. 課題の趣旨

映画『奇談』におけるキリスト教の描写をもって、日本におけるキリスト教の影響を考える。この時期に一次資料を丹念に読解することは、これからの論文の取り組みに重要なことである。研究対象から読み取れことを文章でまとめ、卒業論文に発展できるレポートを書くことにより、論文の文体を実践的に身につけ、今後の研究の方向性確認しておきたい。

II. 課題の手順

- ①映画『奇談』をみて、そのあらすじを書く。
- ②キリスト教関連の一場面を選び、細かいあらすじを書く。
- ③その場面の統語分析。
- ④その場面の範列分析。
- ⑤その場面におけるキリスト教の役割。

III. アドバイス

図書館を利用できなければ、インターネットを活用する。研究方法を考えるため『初心者のための記号論』(<http://www.wind.sannet.ne.jp/masa-t/>)を読み、とくに第16章「記号論的分析の演習」は論文の書き方のヒントとなる。

キリスト教（隠れキリシタンを含む）の教義や儀式についても調べる。
定期的に教員にメール（w_schaumann@mail.tais.ac.jp）をし、指導を受けること。

IV. 提出するもの

レポート（3000字程度。一段落は原則として5, 6行。段落ごとキーワードを述べ、タイトルを付ける。）

提出について

5月9日17:00までに5号館3階の副手さんのカウンターに持参してください。学籍番号と名前が記入してあれば、とくに表紙を付ける必要はありません。指導教員からの指示がある場合はそれに従ってください。

●内田ゼミ

●伊藤ゼミ（内田ゼミと伊藤ゼミは共通の課題です。）

研究計画書の作成

I. 課題の趣旨

卒業論文ゼミがスタートします。大学最終学年を充実したものにし、大学生活の集大成としての卒業論文をより多いものにするために、締め切りまでの8ヶ月間を有効に過ごしたいと思います。段階を追って進んでいけるように、論文を書き上げるまでの作業を一つひとつ大切にしましょう。この時期に重要なことは、研究の設計図作りです。大学の最終学年を迎え、進路選択など忙しいこともあるかと思いますが、卒業論文を書き上げることと、就職活動は矛盾することではありません。自分が何を研究しているか、という主張なしに、相手の企業に魅力のある人材である、何事にも一生懸命に取り組み、困難があっても安易に投げ出さずに遂行することができる人物であると思わせることはできません。無理はせず、でも止まらず、着実な歩みで研究を進めていきましょう。

II. 課題の手順

研究計画書として次のことをまとめてください。字数はとくに規定しません。

- ①研究対象を決める。「何を」研究するのか、いいかえれば一次資料を何にするか、ということです。図書館にあるというのでもかまいませんが、研究しているあいだ、自由に手に取ることのできるものでなければいけません。
- ②その一次資料をどのように手に入れることができるか、見込みを立ててください。
- ③なぜそれを研究したいと思っているのか、研究の動機をまとめてください。またそれを研究することにどのような意義があるのか、説明してください。
- ④それに関連する二次資料のブックリストを作ってください。インターネットで調べたり、文献の参考資料などを活用してください。10冊～20冊くらいが理想的ですが、研究対象によって事情が異なります。

III. アドバイス

それぞれが取り組もうとしている研究によって、文献の探し方も変わります。実際に作成を始めると、疑問点もたくさん出てくると思います。困ったことや迷うことがありましたら、内田ゼミは e_uchida@mail.tais.ac.jp、伊藤ゼミは y_ito@mail.tais.ac.jp に連絡してください。

IV. 提出するもの

計画書を提出してください。

提出について

5月9日17:00までに5号館3階の副手さんのカウンターに持参してください。学籍番号と名前が記入してあれば、とくに表紙を付ける必要はありません。指導教員からの指示がある場合はそれに従ってください。

クリエイティブライティングコース

● 表現学部表現文化学科クリエイティブライティングコース1年生の皆さんへ

I. 学習テーマの趣旨、目標と期待する学習の成果

ご入学おめでとうございます。一刻も早く皆さんとお目にかかりたいのですが、「東日本大震災」のために、その時期が延びたのはとても残念です。この大地震・津波・原発事故のなか、君たちひとりひとは、どのような体験をして、何を考え、何をしていますか？

「東日本大震災」は日本の近・現代の歴史の上で、明治維新、関東大震災、そして66年前の敗戦と同じくらい大きな出来事だといえるでしょう。今回の出来事が、時代の大きな区切りになることは間違いありません。「震災前」の価値観が「震災後」には変わっていく、あるいは変えていく歴史的な時に、君たちはリアルタイムで立ち会っているのです。

この機会に、自分自身と社会を見つめ直し、自分で調べ、考え、文章で表現する力を鍛えることが目標です。

II. 学習テーマの内容

次の2つの課題を行ってください。

課題1

- ①地震のときにどんな体験をして、何を感じ、考え、どんな行動をとったか。(周囲の人たちの反応、行動も含めて)
- ②地震・津波・原発事故・復興に向けての動きを(メディアの報道、ネット、ツイッターなどを通して)見て、どんなことを考えたか。共感したこと、違和感をもったこと不安に思ったこと、将来の日本の姿など、何でもかまいません。あるいは、君たち

自身がどんなことを行ったか。情報を得たり、意見を交換したのは、どのメディアを通してかなど。

①②の内容をあわせて1500～2000字程度(A4用紙1～2枚か、400字原稿用紙4～5枚)で書いてください。

とはいっても、まずは安全第一です。特別な「取材」など行わなくてかまいません。また、直接・間接的に被災された人は、レポートを書く必要はありません。もし書けるようでしたら、文字数は少なくてもかまいませんので書いてみてください。

課題2

以下に紹介する本の中から、少なくとも1冊を読み、感想文を書いてください。

文字数は1000～1500字程度(A4用紙1枚か原稿用紙2～4枚)です。

①災害と人間の行動について書かれた本

『三陸海岸大津波』吉村昭(文春文庫)、『関東大震災』吉村昭(文春文庫)、『M8』高嶋哲夫(集英社文庫)、『死都日本』石黒耀(講談社文庫)、『地震イツモノート』監修：渥美公秀、イラスト：寄藤文平(木楽舎)

* 現在、精神科医の中井久夫先生が阪神大震災のときに体験された手記「災害がほんとうに襲ったとき」の電子データが、ご本人と出版元のみずず書房の了解のもと、ネット上で公開されています。この感想文でもかまいません。

<http://homepage2.nifty.com/jyuseiran/shin/shin00.html>

②本コースの教員から学生諸君への推薦図書

『ことばと国家』田中克彦(岩波新書)、『ことばと文化』鈴木孝夫(岩波新書)、『はじめて考えるときのように』野矢茂樹(PHP文庫)、『本は、これから』池澤夏樹編(岩波新書)、『戦艦大和ノ最期』吉田満(講談社文芸文庫ほか)、『世界屠畜紀行』内澤洵子(解放出版社)、『幸せな売場のつくり方』兼重日奈子(商業界)、『本の未来をつくる仕事/仕事の未来をつくる本』内沼晋太郎(朝日新聞出版)、『日本語の歴史』山口仲美(岩波新書)、『折々のうた』大岡信(岩波新書)、『新釈漢文体系16 古文真宝(後集)』星川清孝編(明治書院)、江藤淳『アメリカと私』(講談社文芸文庫)、『ロンドンで本を読む』丸谷才一編著(光文社知恵の森文庫)

Ⅲ. テーマ学習の方法

自学期間(4月10日～4月30日)を、次のように使って自学を進めてください。

- 1週目(4/10～4/16) 課題用のノートに1冊用意する。資料(新聞、雑誌、ネット上の記事など)を集めて、ノートに必要な箇所を貼ったり、メモを記したりする。自分の体験、感じたことをメモしておく。読む本を選ぶ。
- 2週目(4/17～4/23) ノートに資料を添付、メモをとる。読書メモも記す。
- 3週目(4/24～4/30) ノートのメモがまとまったら、読み直して、レポートの構成を考える。ある程度、アウトラインが出来たところでレポートを書く。書いたら読み直したうえで、文字の間違いを直し、読みやすい文章にして書き直し、提出用のレポートを完成させる。

* 何か、質問があれば、担当教員までメールもしくは電話・FAX で連絡してください。

電話番号&FAX 03-5394-3144

担当教員：(書道) 赤平和順 (学科長) k_akahira@mail.tais.ac.jp

(編集系) 渡邊直樹 (コース長) n_watanabe@mail.tais.ac.jp

大島一夫 k_oshima@mail.tais.ac.jp

(創作系) 小嶋知善 t_kojima@mail.tais.ac.jp

森晴彦 h_mori@mail.tais.ac.jp

山田潤治 j_yamada@mail.tais.ac.jp

IV. レポート提出日

締切り：平成 23 年 5 月 9 日 (月) 17 時

提出先：大正大学 5 号館 4 階表現文化教授室 コンシュルジュ・分島 (わけじま)

なお、レポートは教員が読んだあとで講評する予定です。

授業のときに君たちと会えることを待ち望んでいます。

● 表現学部表現文化学科クリエイティブライティングコース 2 年生へ

I. 学習テーマの趣旨、目標と期待する学習の成果

この大地震・津波・原発事故のなか、君たちひとりひとは、どのような体験をして、何を考え、何をしていますか？ 「東日本大震災」は日本の近・現代の歴史の上で、明治維新、関東大震災、そして 66 年前の敗戦と同じくらい大きな出来事だといえるでしょう。今回の出来事が、時代の大きな区切りになることは間違いありません。「震災前」の価値観が「震災後」には変わっていく、あるいは変えていく歴史的な時に、君たちはリアルタイムで立ち会っているのです。

この機会に、自分自身と社会を見つめ直し、自分で調べ、考え、文章で表現する力をさらに鍛え、世の中で起きる様々な事態に対応し貢献できるようになることが目標です。

II. 学習テーマの内容

次の 2 つの課題を行ってください。

課題 1

①地震のときにどんな体験をして、何を感じ、考え、どんな行動をとったか。(周囲の人たちの反応、行動も含めて)

②地震・津波・原発事故・復興に向けての動きを(メディアの報道、ネット、ツイッターなどを通して)見て、どんなことを考えたか。共感したこと、違和感をもったこと不安に思ったこと、将来の日本の姿など、何でもかまいません。あるいは、君たち自身がどんなことを行ったか。情報を得たり、意見を交換したのは、どのメディアを通してかなど。

①②の内容をあわせて 3000～5000 字程度 (A4 用紙 2～3 枚) で書いてください。
とはいっても、まずは安全第一です。特別な「取材」など行わなくてかまいません。
また、直接・間接的に被災された人、ボランティア活動に従事している人はレポート
を書く必要はありません。もし書けるようでしたら、文字数は少なくてもかまいませ
るので書いてみてください。

課題 2

以下に紹介する本の中から、少なくとも 1 冊を読み、感想文を書いてください。
文字数は 1000～1500 字程度 (A4 用紙 1 枚) です。2 冊以上読んだ人は 2 冊分 (1 冊あ
たりの文字数は 1000～1500 字) 書いてきてもかまいません。

①災害と人間の行動について書かれた本

『三陸海岸大津波』吉村昭 (文春文庫)、『関東大震災』吉村昭 (文春文庫)、『M8』高嶋
哲夫 (集英社文庫)、『死都日本』石黒耀 (講談社文庫)、『地震イツモノート』監修：
渥美公秀、イラスト：寄藤文平 (木楽舎)

* 現在、精神科医の中井久夫先生が阪神大震災のときに体験された手記「災害がほん
とくに襲ったとき」の電子データが、ご本人と出版元のみすず書房の了解のもと、
ネット上で公開されています。この感想文でもかまいません。

<http://homepage2.nifty.com/jyuseiran/shin/shin00.html>

②本コースの教員から学生諸君への推薦図書

『ことばと国家』田中克彦 (岩波新書)、『ことばと文化』鈴木孝夫 (岩波新書)、『はじ
めて考えるときのように』野矢茂樹 (PHP 文庫)、『本は、これから』池澤夏樹編 (岩
波新書)、『戦艦大和ノ最期』吉田満 (講談社文芸文庫ほか)、『世界屠畜紀行』内澤洵子
(解放出版社)、『幸せな売場のつくり方』兼重日奈子 (商業界)、『本の未来をつくる仕
事/仕事の未来をつくる本』内沼晋太郎 (朝日新聞出版)、『日本語の歴史』山口仲美 (岩
波新書)、『折々のうた』大岡信 (岩波新書)、『新釈漢文体系 16 古文真宝 (後集)』星川
清孝編 (明治書院)、江藤淳『アメリカと私』(講談社文芸文庫)、『ロンドンで本を読む』
丸谷才一編著 (光文社知恵の森文庫)

Ⅲ. テーマ学習の方法

自学期間 (4 月 10 日～4 月 30 日) を、次のように使って自学を進めてください。

- 1 週目 (4/10～4/16) 課題用のノートを 1 冊用意する。資料 (新聞、雑誌、ネット上の記
事など) を集めて、ノートに必要な箇所を貼ったり、メモを記した
りする。自分の体験、感じたことをメモしておく。読む本を選ぶ。
- 2 週目 (4/17～4/23) ノートに資料を添付、メモをとる。読書メモも記す。
- 3 週目 (4/24～4/30) ノートのメモがまとまったら、読み直して、レポートの構成を考え
る。ある程度、アウトラインが出来たところでレポートを書く。書
いたら読み直したうえで、文字の間違いを直し、読みやすい文章に
して書き直し、提出用のレポートを完成させる。

* 何か、質問があれば、担当教員までメールもしくは電話・FAX で連絡してください。

電話番号&FAX 03-5394-3144

担当教員：(書道) 赤平和順 (学科長) k_akahira@mail.tais.ac.jp

(編集系) 渡邊直樹 (コース長) n_watanabe@mail.tais.ac.jp

大島一夫 k_oshima@mail.tais.ac.jp

(創作系) 小嶋知善 t_kojima@mail.tais.ac.jp

森晴彦 h_mori@mail.tais.ac.jp

山田潤司 j_yamada@mail.tais.ac.jp

IV. レポート提出日

締切り：平成 23 年 5 月 9 日 (月) 17 時

提出先：大正大学 5 号館 4 階表現文化教授室 コンシュルジュ・分島 (わけじま)

なお、レポートは教員が読んだあとで講評する予定です。

授業のときに君たちと会えることを待ち望んでいます。

● 文学部表現文化学科クリエイティブライティングコース 3 年生へ

I. 学習テーマの趣旨、目標と期待する学習の成果

この大地震・津波・原発事故のなか、君たちひとりひとは、どのような体験をして、何を考え、何をしていますか？ 「東日本大震災」は日本の近・現代の歴史の上で、明治維新、関東大震災、そして 66 年前の敗戦と同じくらい大きな出来事だといえるでしょう。今回の出来事が、時代の大きな区切りになることは間違いありません。「震災前」の価値観が「震災後」には変わっていく、あるいは変えていく歴史的な時に、君たちはリアルタイムで立ち会っているのです。

この機会に、自分自身と社会を見つめ直し、自分で調べ、考え、文章で表現する力をさらに鍛え、世の中で起きる様々な事態に対応し貢献できるようになることが目標です。

II. 学習テーマの内容

次の 2 つの課題を行ってください。

課題 1

①地震のときにどんな体験をして、何を感じ、考え、どんな行動をとったか。(周囲の人たちの反応、行動も含めて)

②地震・津波・原発事故・復興に向けての動きを(メディアの報道、ネット、ツイッターなどを通して)見て、どんなことを考えたか。共感したこと、違和感をもったこと不安に思ったこと、将来の日本の姿など、何でもかまいません。あるいは、君たち自身がどんなことを行ったか。情報を得たり、意見を交換したのは、どのメディアを通してかなど。

①②の内容をあわせて 3000～5000 字程度 (A4 用紙 2～3 枚) で書いてください。
とはいっても、まずは安全第一です。特別な「取材」など行わなくてかまいません。
また、直接・間接的に被災された人、ボランティア活動に従事している人はレポート
を書く必要はありません。もし書けるようでしたら、文字数は少なくてもかまいませ
るので書いてみてください。

課題 2

以下に紹介する本の中から、少なくとも 1 冊を読み、感想文を書いてください。
文字数は 1000～1500 字程度 (A4 用紙 1 枚) です。2 冊以上読んだ人は 2 冊分 (1 冊あ
たりの文字数は 1000～1500 字) 書いてきてもかまいません。

①災害と人間の行動について書かれた本

『三陸海岸大津波』吉村昭 (文春文庫)、『関東大震災』吉村昭 (文春文庫)、『M8』高嶋
哲夫 (集英社文庫)、『死都日本』石黒耀 (講談社文庫)、『地震イツモノート』監修：
渥美公秀、イラスト：寄藤文平 (木楽舎)

* 現在、精神科医の中井久夫先生が阪神大震災のときに体験された手記「災害がほん
とくに襲ったとき」の電子データが、ご本人と出版元のみすず書房の了解のもと、
ネット上で公開されています。この感想文でもかまいません。

<http://homepage2.nifty.com/jyuseiran/shin/shin00.html>

②本コースの教員から学生諸君への推薦図書

『ことばと国家』田中克彦 (岩波新書)、『ことばと文化』鈴木孝夫 (岩波新書)、『はじ
めて考えるときのように』野矢茂樹 (PHP 文庫)、『本は、これから』池澤夏樹編 (岩
波新書)、『戦艦大和ノ最期』吉田満 (講談社文芸文庫ほか)、『世界屠畜紀行』内澤洵子
(解放出版社)、『幸せな売場のつくり方』兼重日奈子 (商業界)、『本の未来をつくる仕
事/仕事の未来をつくる本』内沼晋太郎 (朝日新聞出版)、『日本語の歴史』山口仲美 (岩
波新書)、『折々のうた』大岡信 (岩波新書)、『新釈漢文体系 16 古文真宝 (後集)』星川
清孝編 (明治書院)、江藤淳『アメリカと私』(講談社文芸文庫)、『ロンドンで本を読む』
丸谷才一編著 (光文社知恵の森文庫)

III. テーマ学習の方法

自学期間 (4 月 10 日～4 月 30 日) を、次のように使って自学を進めてください。

1 週目 (4/10～4/16) 課題用のノートに 1 冊用意する。資料 (新聞、雑誌、ネット上の記
事など) を集めて、ノートに必要な箇所を貼ったり、メモを記した
りする。自分の体験、感じたことをメモしておく。読む本を選ぶ。

2 週目 (4/17～4/23) ノートに資料を添付、メモをとる。読書メモも記す。

3 週目 (4/24～4/30) ノートのメモがまとまったら、読み直して、レポートの構成を考え
る。ある程度、アウトラインが出来たところでレポートを書く。書
いたら読み直したうえで、文字の間違いを直し、読みやすい文章に
して書き直し、提出用のレポートを完成させる。

* 何か、質問があれば、担当教員までメールもしくは電話・FAX で連絡してください。

電話番号&FAX 03-5394-3144

担当教員：(創作系) 小嶋知善 t_kojima@mail.tais.ac.jp

森晴彦 h_mori@mail.tais.ac.jp

山田潤治 j_yamada@mail.tais.ac.jp

(編集系) 渡邊直樹 n_watanabe@mail.tais.ac.jp

大島一夫 @k_oshima@mail.tais.ac.jp

IV. レポート提出日

締切り：平成 23 年 5 月 9 日 (月) 17 時

提出先：大正大学 5 号館 4 階表現文化教授室 コンシュルジュ・分島 (わけじま)

なお、レポートは教員が読んだあとで講評する予定です。

授業のときに君たちと会えることを待ち望んでいます。

● 文学部表現文化学科創作表現コース 4 年生へ

I. 学習テーマの趣旨、目標と期待する学習の成果

この大地震・津波・原発事故のなか、君たちひとりひとは、どのような体験をして、何を考え、何をしていますか？ 「東日本大震災」は日本の近・現代の歴史の上で、明治維新、関東大震災、そして 66 年前の敗戦と同じくらい大きな出来事だといえるでしょう。今回の出来事が、時代の大きな区切りになることは間違いありません。「震災前」の価値観が「震災後」には変わっていく、あるいは変えていく歴史的な時に、君たちはリアルタイムで立ち会っているのです。

就職活動もさらに厳しくなり大変だと思いますが、この機会に自分自身と社会を見つめ直し、自分で調べ、考え、文章で表現する力をさらに鍛え、世の中で起きる様々な事態に対応し貢献できるようになることが目標です。

II. 学習テーマの内容

次の 2 つの課題を行ってください。

課題 1

- ①地震のときにどんな体験をして、何を感じ、考え、どんな行動をとったか。(周囲の人たちの反応、行動も含めて)
- ②地震・津波・原発事故・復興に向けての動きを(メディアの報道、ネット、ツイッターなどを通して)見て、どんなことを考えたか。共感したこと、違和感をもったこと不安に思ったこと、将来の日本の姿など、何でもかまいません。あるいは、君たち自身がどんなことを行ったか。情報を得たり、意見を交換したのは、どのメディアを通してかなど。

①②の内容をあわせて 3000～5000 字程度 (A4 用紙 2～3 枚) で書いてください。
とはいっても、まずは安全第一です。特別な「取材」など行わなくてかまいません。
また、直接・間接的に被災された人、ボランティア活動に従事している人はレポート
を書く必要はありません。もし書けるようでしたら、文字数は少なくともかまいません
ので書いてみてください。

課題 2

以下に紹介する本の中から、少なくとも 1 冊を読み、感想文を書いてください。
文字数は 1000～1500 字程度 (A4 用紙 1 枚) です。

①災害と人間の行動について書かれた本

『三陸海岸大津波』吉村昭 (文春文庫)、『関東大震災』吉村昭 (文春文庫)、『M8』高嶋
哲夫 (集英社文庫)、『死都日本』石黒耀 (講談社文庫)、『地震イツモノート』監修：
渥美公秀、イラスト：寄藤文平 (木楽舎)

* 現在、精神科医の中井久夫先生が阪神大震災のときに体験された手記「災害がほん
とくに襲ったとき」の電子データが、ご本人と出版元のみずず書房の了解のもと、
ネット上で公開されています。この感想文でもかまいません。

<http://homepage2.nifty.com/jyuseiran/shin/shin00.html>

②本コースの教員から学生諸君への推薦図書

『ことばと国家』田中克彦 (岩波新書)、『ことばと文化』鈴木孝夫 (岩波新書)、『はじ
めて考えるときのように』野矢茂樹 (PHP 文庫)、『本は、これから』池澤夏樹編 (岩
波新書)、『戦艦大和ノ最期』吉田満 (講談社文芸文庫ほか)、『世界屠畜紀行』内澤洵子
(解放出版社)、『幸せな売場のつくり方』兼重日奈子 (商業界)、『本の未来をつくる仕
事/仕事の未来をつくる本』内沼晋太郎 (朝日新聞出版)、『日本語の歴史』山口仲美 (岩
波新書)、『折々のうた』大岡信 (岩波新書)、『新釈漢文体系 16 古文真宝 (後集)』星川
清孝編 (明治書院)、江藤淳『アメリカと私』(講談社文芸文庫)、『ロンドンで本を読む』
丸谷才一編著 (光文社知恵の森文庫)

Ⅲ. テーマ学習の方法

自学期間 (4 月 10 日～4 月 30 日) を、次のように使って自学を進めてください。

1 週目 (4/10～4/16) 課題用のノートに 1 冊用意する。資料 (新聞、雑誌、ネット上の記
事など) を集めて、ノートに必要な箇所を貼ったり、メモを記した
りする。自分の体験、感じたことをメモしておく。読む本を選ぶ。

2 週目 (4/17～4/23) ノートに資料を添付、メモをとる。読書メモも記す。

3 週目 (4/24～4/30) ノートのメモがまとまったら、読み直して、レポートの構成を考え
る。ある程度、アウトラインが出来たところでレポートを書く。書
いたら読み直したうえで、文字の間違いを直し、読みやすい文章に
して書き直し、提出用のレポートを完成させる。

* 何か、質問があれば、担当教員までメールもしくは電話・FAX で連絡してください。
電話番号&FAX 03-5394-3144

担当教員：渡邊直樹 n_watanabe@mail.tais.ac.jp
小嶋知善 k_kojima@mail.tais.ac.jp
森晴彦 h_mori@mail.tais.ac.jp
山田潤治 j_yamada@mail.tais.ac.jp
それぞれ、卒論ゼミの担当教員に問い合わせてください。

IV. レポート提出日

締切り：平成 23 年 5 月 9 日（月）17 時

提出先：大正大学 5 号館 4 階表現文化教授室 コンシユルジュ・分島（わけじま）

なお、レポートは教員が読んだあとで講評する予定です。第一回の卒論ゼミまでに、卒論（卒業制作）のテーマ、内容、アウトラインを考え、教員に報告できるようにしておいてください。卒論ゼミで、君たちと会えることを教員一同、待ち望んでいます。

映像文化、放送・映像表現コース

自学・自主学習課題 1 年生

I. 学習テーマ設定の趣旨、および求めたい学習の成果や目標について

私たちは「表現」を学ぼうとしています。「表現」とは自分の思いを社会に問う行為です。そのためには正確に体系的に社会の営みを理解し、そこに暮らす人々の心を思い遣ることが欠かせません。

今大震災が社会と人々の心を大きく揺さぶっています。この一ヶ月を様々なメディアの報道を中心に、注意深く読み解くことに注力してください。表現を学ぶ礎をしっかりと作ってください。

II. 学習テーマの内容について

今回の東日本大震災がどのように報道されたのか、地震・津波発生直後から現在までの新聞をファイルし、災害時における新聞報道の意義を検証する。この大震災において、新聞は何をどう報道したのか。

III. テーマ学習の方法

- ①A4 サイズのノートを用意する。
- ②新聞を一紙選び、時間の経過とともに報道の内容がどのように変化していったかを検証する。例えば、避難所の報道のされ方、原子力発電所の事故についての報道のされ方、外国や海外メディアでの報道のされかたなど。

各自一つのテーマを決め、そのテーマの記事を時系列に並べて報道の変化を検証する。
その際、他紙ではそのテーマをどのように報道していたか、同じテーマの他紙の記事も
入れ、比較を行うこと。(スクラップした記事は何月何日の何新聞の何面か分かるように
すること)

③上記を日ごとにスクラップし、A4 ノートに記事を貼り付ける。

3月11日～4月30日分まで行う。(そのテーマの報道がされなかった日は無くて良い)

④貼り付けた複数紙の比較から、どのような報道の変化があったか、また各紙によってど
のように報道に違いがあるかを見つけ、文章でまとめる。

⑤同様にして記事の見出しや写真を比べ、印象の強さの違いは何が原因だったかを検証
し、文章でまとめる。

*新聞記事は自宅で3月11日以降を保存してある場合は自宅の新聞を、ない場合は図書館
に行き新聞をみて、必要なものはコピーしてファイルを作成すること。

IV. レポートの指示

上記の課題をA4 ノートで提出する。

書き方は前半にスクラップを行い、後半に文章でまとめるか、スクラップの合間に文章を
入れるかは自由とする。

文字数は10,000字程度(新聞記事の文字数は含めない)

提出日: 5月12日(木) 1限 ワークショップ I 授業内

尚、進捗状況を4月13日(水) 午後1時までに担当教員まで連絡すること。

その際、メールの件名は学籍番号、名前を明記すること。

その後の報告は個別に指導します

質問・連絡先

小櫻英夫 h_kozakura@mail.tais.ac.jp

メールが出来ない学生は03-3918-7311(大正大学・代表)に電話し、小櫻先生までつない
でもらってください。

*大正大学ではボランティア組織を構成して、現地に学生と教職員を派遣致します。放送・
映像コースの指針としては、可能な限りこちらに参加して現地で起こっていることを体感
し、考えてもらいたいと思っています。上記の課題は都合によりそれが出来ない学生に対
する課題となります。

自学・自主学習課題 2年生

I. 学習テーマ設定の趣旨、および求めたい学習の成果や目標について

私たちは「表現」を学ぼうとしています。「表現」とは自分の思いを社会に問う行為です。

そのためには正確に体系的に社会の営みを理解し、そこに暮らす人々の心を思い遣ることが欠かせません。

今大震災が社会と人々の心を大きく揺さぶっています。この一ヶ月を様々なメディアの報道を中心に、注意深く読み解くことに注力してください。表現を学ぶ礎をしっかりと作ってください。

II.学習テーマの内容について

阪神淡路大震災の際のテレビ報道の仕方と、今回の東北関東大震災の際のテレビ報道の仕方を比べ、その相違点、一致点をまとめる。また、そこから考えたことをまとめる。

III.テーマ学習の方法

東北関東大震災のテレビ報道に関しては、現在行われているものを逐一確認する。

阪神大震災に関しては youtube など動画共有サイトにて確認出来る。

① Youtube のサイトへアクセス (<http://www.youtube.com>)

② 検索欄に「阪神淡路大震災」などで検索。ちなみに「東北関東大震災」でも投稿映像あり。

調べた映像は文章に明記すること。(Youtube は映像の名前や投稿者名など。TV は放送局や番組名、放映日など)

IV.レポートの指示

Word 形式で作成。40 字×40 行設定。5,000 字程度。

00000(学籍番号)●●●●●(名前)「論題」でファイル名を付ける。

提出日：2011 年 5 月 9 日 (月) 1 限ワークショップⅢ授業まで

提出場所：511 教室内サーバー

「2011 年講義」→「石原康臣先生」→「自学・自習課題」→「2 年生」

尚、進捗状況を 4 月 13 日 (水) 午後 1 時までに担当教員まで連絡すること。

その際、メールの件名は学籍番号、名前を明記すること。

その後の報告は個別に指導します。

質問・連絡先

石原康臣 4thfloor@mail.goo.ne.jp

*大正大学ではボランティア組織を構成して、現地に学生と教職員を派遣致します。放送・映像コースの指針としては、可能な限りこちらに参加して現地で起こっていることを体感し、考えてもらいたいと思っています。上記の課題は都合によりそれが出来ない学生に対する課題となります。

I.学習テーマ設定の趣旨、および求めたい学習の成果や目標について

私たちは「表現」を学ぼうとしています。「表現」とは自分の思いを社会に問う行為です。そのためには正確に体系的に社会の営みを理解し、そこに暮らす人々の心を思い遣ることが欠かせません。

今大震災が社会と人々の心を大きく揺さぶっています。この一ヶ月を様々なメディアの報道を中心に、注意深く読み解くことに注力してください。表現を学ぶ礎をしっかりと作ってください。

II.学習テーマの内容について

今回の一連の災害がどのように伝えられたかを具体的、体系的に検証する。特に次の2点に注力してください。

- ①新聞・テレビは発生直後から今日まで、どう報道内容が変化したか。
- ②メールやツイッター、ブログなどによる情報の流れはどのようなものだったか。マスメディアとパーソナルメディアの差をしっかりと理解してください。

III.テーマ学習の方法

主にテレビが伝えた映像報道は、1995年の阪神淡路大震災時のものも含め、youtubeなどに多数残されており検索出来ます。また図書館には過去の新聞が残されています。

Webによる情報はブログやツイッターなどパーソナルな相互性によってマスメディアが伝えきれなかった内容が含まれています。チャリティーやボランティアなどの多くの成果を挙げる一方で、デマや噂などの風評被害も発生しています。

IV.レポートの指示

Word形式で作成。40字×40行設定。5,000字程度。

00000(学籍番号)●●●●(名前)「論題」でファイル名を付ける。

提出日：2011年5月10日(月) 1限ワークショップV授業まで

提出場所：511 教室内サーバー

「2011年講義」→「岩城レイ子先生」→「自学・自習課題」→「3年生」

尚、進捗状況を4月13日(水)午後1時までに担当教員まで連絡すること。

その際、メールの件名は学籍番号、名前を明記すること。

その後の報告は個別に指導します。

質問・連絡先

岩城レイ子 r_iwaki@mail.tais.ac.jp

* 大正大学ではボランティア組織を構成して、現地に学生と教職員を派遣致します。放送・映像コースの指針としては、可能な限りこちらに参加して現地で起こっていることを体感し、考えてもらいたいと思っています。上記の課題は都合によりそれが出来ない学生に対する課題となります。

I.学習テーマ設定の趣旨、および求めたい学習の成果や目標について

4年間のまとめとして自身の研究テーマを確定し、研究の指針を確定する。

II.学習テーマの内容について

テーマを確定した後、文献を紐解き、論文の第一稿となる文章を書く。目次もつける。何について研究し、どんな結論が言えるのかをしっかりと考え、書く。

III.テーマ学習の方法

- ③ 研究テーマを決める。興味ある分野、気になる分野からスタートすると手が付けやすい。
- ④ そのテーマに関連する書籍を集められるだけ集める。図書館、インターネット、ネット通販、古書店または関係者にインタビューなどして情報を仕入れる。
- ⑤ そろった情報をまとめる。まずは有効と思ったものを総て書き出す。
- ⑥ 書き出した情報をまとめ、そこから自分の考えを導き出し、加えていく。纏めていく。

*石原ゼミは論文で導いた結果（可能性など）から作品制作に入っていきます。

*小櫻ゼミは本課題を元にさらに論文を膨らませていきます。

また、石原ゼミの過去論文は5号館1階511教室にあります。

4月1日以降、月一金曜日、10時～16時で閲覧出来ます。

IV.レポートの指示

- ・ Word形式で作成。40字×40行設定。5,000字程度。（目次もつけること。字数にはカウントしない）
- ・ 00000(学籍番号)●●●●(名前)「論題」でファイル名を付ける。
- ・ 提出締め切り日：2011年5月9日（月）12時まで
- ・ 提出場所：担当教員のメールアドレスまで添付して送信

尚、進捗状況を4月14日（木）午後1時までに担当教員まで連絡すること。

その際、メールの件名は学籍番号、名前を明記すること。

その後の報告は個別に指導します。

質問・連絡

石原康臣 4thfloor@mail.goo.ne.jp

小櫻英夫 h_kozakura@mail.tais.ac.jp

♪表現学部表現文化学科英語表現・コミュニケーションコース1年生♪

I. 学習テーマの趣旨、目標と期待する学習の成果

大地震・津波・原発事故という未曾有大災害は、世界中の注目を浴びています。今回の大震災にあたり、1年生のみなさんには今回の災害がどのように報道されているかを知り、それに対する意見を英語で表現する力をつけてもらいたいと思います。

学生ひとりひとりにはこの状況から学ぶとともに、その学びが社会貢献につながるような学習を望んでいます。これから世界中で起こりうる様々な事態に対応していけるように、英語をとおして貢献できる力を鍛えていくことが目標です。

II. 学習テーマの内容

[課題] 英語で Diary を書いてみよう！

毎日少しずつ英語で自分が考えたこと、行動したことを英語で書いてください。

テーマは、地震、津波、原発事故についてのテレビ報道で観たこと、新聞や雑誌などで読んだことについて、自分が感じ、考えたことを英語で表現してみましょう。

それだけではなく自分ができる「小さな社会貢献」について考え、英語で書いてください。

- 1 週目 (4/11-18) 英語の文章を毎日3センテンス書く。(7日分)
 - 2 週目 (4/17-23) 英語の文章を毎日4センテンス書く。(7日分)
 - 3 週目 (4/24-30) 英語の文章を毎日5センテンス書く。(7日分)
- (全21センテンス・ノートかA4レポート用紙使用して書く)

III. テーマ学習の方法

●課題に取り組むためのステップ

ステップ1 下記の情報源から大震災に関する情報や知識を得る。

- ・テレビの報道(各テレビ局のニュースや特集番組 etc.) を観てメモを取る
- ・新聞や雑誌(各日本語の新聞や英字新聞・週刊誌・月刊誌 etc.) を読んでメモを取る
- ・自分ができる「小さな社会貢献」を考える。[例]節電・ボランティア・買い控え etc.

ステップ2 調べたことに対しての意見を簡単な日本語で書く

ステップ3 日本語の単語を和英辞典で調べ、文章を英語に訳す

●毎月曜日18時に大正大学のHPに連絡事項が載りますから、必ず見てください。

第1回目 4/11(月) 第2回目 4/17(月) 第3回目 4/24(月)

●わからないことがあったら遠慮しないで、担当教員：西蔭浩子までメールもしくは電話・FAXで連絡してください。

メールアドレス h_nishikage@mail.tais.ac.jp

電話番号&FAX 03-5394-3144 (月一金13:00-16:00)

IV. レポート提出日

提出物： 英語での Diary 21 日分
締め切り日： 平成 23 年 5 月 9 日（月）17:00
提出先：大正大学 5 号館 4 階表現文化研究室受付

♪表現学部表現文化学科英語表現・コミュニケーションコース 2 年生♪

I. 学習テーマの趣旨、目標と期待する学習の成果

今回の大震災にあたり、英コミの学生ひとりひとりにはこの状況から学ぶとともに、その学びが社会貢献につながるような学習を望んでいます。そして、世界中で起こりうる様々な事態に対応していけるように、英語をとおして貢献できる力を鍛えていくことが目標です。

2 年生のみなさんには英語を媒介として、災害に関する英語の語彙を増やし、英文で必要な情報を受容していく力をつけてもらいたいと思います。

II. 学習テーマの内容

[課題 1] 大震災関係の単語帳と例文を作ろう

1 日 5 words ずつ（3 週間で 75 words + 75 の例文）

1 週目（4/10-16） 1 日 5 words x 7 日 = 35 words

2 週目（4/17-23） 1 日 5 words x 7 日 = 35 words

3 週目（4/24-30） 1 日 5 words x 7 日 = 35 words

[課題 2] 大震災に関する英文記事を和訳して、英語のコメントを書こう

毎週月曜日 18 時に大正大学ホームページの英コミコースのブログに英文記事が 3 つアップされるので、それぞれの英文を和訳する。それに対する自分の考えを英語で書く。（3 週間で 9 つの和訳 + 9 つのコメント）

1 週目 4/11 英文記事 3 文 ホームページに UP ⇒ 和訳&コメント

2 週目 4/18 英文記事 3 文 ホームページに UP ⇒ 和訳&コメント

3 週目 4/24 英文記事 3 文 ホームページに UP ⇒ 和訳&コメント

III. テーマ学習の方法

（ノートかレポート用紙に手書き、あるいは PC で作成し A4 用紙に印刷）

●課題に取り組むためのステップ

[課題 1] 大震災関係の単語帳と例文作り

ステップ 1 日本語の新聞や雑誌、テレビなどで使われている大震災関係の単語を選ぶ

ステップ 2 ノートにまず日本語の単語を書き取り、該当する英語単語を書き入れる

ステップ 3 その語を使用した例文を入れたリストを作成する

例文は辞書の例文を写すだけでなく、自分で作成すると力がつく

[課題 2] 大震災に関する英文記事の和訳と英語のコメント

ステップ 1 英コミのブログにアップされる 3 つの英文をノートに書き取る

ステップ2 英文をそれぞれ和訳する

ステップ3 それぞれの英文に対するコメントを英語で書く

- 毎月曜日18時に大正大学のHPに連絡事項が載りますから、必ず見てください。

第1回目 4/11(月) 第2回目 4/17(月) 第3回目 4/24(月)

- 質問があったら 担当教員：岡野恵までメールもしくは電話・FAXで連絡してください。

メールアドレス m_okano@mail.tais.ac.jp

電話番号&FAX 03-5394-3144 (火・水・金 13:00-16:00)

IV. レポート提出日

提出物： [課題1] 大震災関係の単語75 words と例文75 sentences

[課題2] 大震災に関する英文記事の和訳9つと英語のコメント9つ

締め切り日： 平成23年5月9日(月) 17:00

提出先：大正大学5号館4階表現文化研究室 Levi

♪文学部表現文化学科英語コミュニケーションコース3年生♪

I. 学習テーマの趣旨、目標と期待する学習の成果

今回の大震災にあたり、英コムの学生一人一人にはこの状況から学ぶとともに、その学びが社会貢献につながるような学習を望んでいます。世界中で起こりうる様々な事態に対応していけるように、英語をとおして貢献できる力を鍛えていくことが目標です。

3年生のみなさんには英語を媒介として、全世界に今回の大災害がどのように報道されているかを知り、それに対する意見を英語で表現し、英文で必要な情報を発信していく力をつけてもらいたいと思います。

II. 学習テーマの内容

[課題] 毎日インターネットで大災害がどう報道されているかチェックし、和訳し、英語でコメントを書こう

- ・毎日、地震・津波・原発事故に関連するインターネット上の英文新聞記事やニュースサイトの記事から1パラグラフ選ぶ。なお、以下のサイトを推薦する

- ① 週刊ST (Japan Times Shukan ST Online)

<http://www.japantimes.co.jp/shukan-st/>

- ② ジャパンタイムズ (The Japan Times Online) <http://www.japantimes.co.jp/>

- ③ CNN 学生用 (CNN student news) <http://www.cnn.com/studentnews/>

- ④ BBC ワールドサービス <http://www.bbc.co.uk/worldservice/>

それぞれの記事に対するコメントを英語で書く。英文記事についても各自で書き(もしくはPCで打ち)、提出文書につけること。(期間中、合計21本)

- ・次に英文を和訳し、英語でコメントを書く

* 3週間で21パラグラフの和訳 + 21のコメント

1週目 (4/10-16) 英文記事1 x 7日間 = 7 paragraphs + 7 comments

2週目 (4/17-23) 英文記事1 x 7日間 = 7 paragraphs + 7 comments

3週目 (4/24-30) 英文記事1 x 7日間 = 7 paragraphs + 7 comments

III. テーマ学習の方法

●課題に取り組むためのステップ

ステップ1 上記のサイトにアクセスし、新聞記事をよく読み、自分で興味を持った記事の1パラグラフを選ぶ

ステップ2 選んだ1パラグラフの英文を用紙に書き、和訳する

ステップ3 記事の内容について自分の考えたことを英語で書く

●毎月曜日18時に大正大学のHPに連絡事項が載りますから、必ず見てください

第1回目 4/11 (月) 第2回目 4/17 (月) 第3回目 4/24 (月)

●質問があったら、担当教員：田村雅昭までメールもしくは電話・FAXで連絡してください

メールアドレス m_tamura@mail.tais.ac.jp

電話番号&FAX 03-5394-3144 (月・水・木 13:00-16:00)

IV. レポート提出日

提出物： 大震災英文21 paragraphsの和訳、英語でコメント21

締め切り日： 平成23年5月9日 (月) 17:00

提出先：大正大学5号館4階表現文化研究室 Levi

♪文学部表現文化学科異文化表現コース英コミ4年生♪

I. 学習テーマの趣旨、目標と期待する学習の成果

今回の大震災にあたり、英コミの学生一人一人にはこの状況から学ぶとともに、その学びが社会貢献につながるような学習を望んでいます。ひとつのテーマの追求をとおして、調べ、考え、学ぶという姿勢を確立することで、今後も世界中で起こりうる様々な事態に貢献できる力を鍛えていくことが目標であり、期待される成果です。

4年生のみなさんはこの4月10日から30までの自学・自習期間中、各自が掲げた卒論テーマに基づき、それに真摯に取り組むことが、大学生のとるべき姿だと考えます。

II. 学習テーマの内容

各自のテーマに沿った卒論関係の本を週に1冊読み、以下の課題を提出する

・[課題1] 卒論の参考文献3冊の要約を書く

1週目 (4/10-16) 1冊目を読んで、日本語で要約

2 週目 (4/17-23) 2 冊目を読んで、日本語で要約

3 週目 (4/24-30) 3 冊目を読んで、日本語で要約

* 1 冊につき、最低 A4 用紙 1 枚 (1600 字以上) とする。

[課題 2] 上記の参考文献から、卒論に引用できる箇所の抜粋一覧を作る

各文献から 10~15 か所抜粋し、一覧表を作る。

抜粋部分はコピーして提出のこと。

III. テーマ学習の方法

●課題に取り組むためのステップ

[課題 1] 卒論の参考文献 3 冊の要約を書く

ステップ 1 下記の「新書版」から参考文献を選ぶ

例 岩波新書、講談社現代新書、角川 SSC 新書、集英社新書など。

もしくは図書館や書店に行き、自分の卒論のテーマに沿った本を探す。

ステップ 2 候補の本を決めて、それぞれの卒論指導者に各自連絡する。

(報告締め切りは 4 月 10 日 18 時)

卒論担当教員 西蔭 浩子 h_nishikage@mail.tais.ac.jp

田村 雅昭 m_tamura@mail.tais.ac.jp

岡野 恵 m_okano@mail.tais.ac.jp

ステップ 3 1 週間で新刊書版 220 頁ほどのものを 1 冊読む。

要約を書く。できれば PC を使用し、A4 用紙で印刷する。

[課題 2] 卒論に引用できる箇所の抜粋一覧を作る

ステップ 1 各文献から 10~15 か所抜粋し、一覧表を作る。

<抜粋一覧の書き方は次のようにする>

著者名	書籍名	出版社	該当ページ
鈴木孝夫	『ことばと文化』	岩波新書	p. p 62-63
鳥飼玖美子	『危うし！小学校英語』	文春新書	p. p. 148-150

* できれば PC を使用し、A4 用紙で印刷する。

・抜粋箇所のコピーはバラバラになって読みにくくならないよう配慮する。

●毎月曜日 18 時に大正大学の HP に連絡事項が載りますから、必ず見てください。

第 1 回目 4/11 (月) 第 2 回目 4/17 (月) 第 3 回目 4/24 (月)

●質問があったら 担当までメールもしくは電話・FAX で連絡してください。

電話番号&FAX 03-5394-3144 (月一金 13:00-16:00)

IV. レポート提出日

提出物: [課題 1] 卒論の参考文献 3 冊の要約 (1600 字以上のもの 3 つ)

[課題 2] 卒論に引用できる箇所の抜粋一覧を作る

締め切り日： 平成 23 年 5 月 9 日（月） 17:00

提出先：大正大学 5 号館 4 階表現文化研究室受付 Levi